

第Ⅱ章 調査概要

1 調査の経過

- 経緯** 1975年度に奈良郵便局庁舎の移転が平城京左京三条二坊六坪にあたる奈良市尼ヶ辻ゴドサ甲669—1（現地名は奈良市三条大路一丁目）に計画された。平城京内の大規模開発事業に伴う事前協議の結果、奈良県教育委員会の行政指導のもとに発掘調査が実施されることとなり、近畿郵政局の依頼により発掘調査を奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部が担当することとなった。*
- 調査はまず用地内の遺跡の状況を確認するため、東西・南北2本のトレンチにより800m²の予備調査（第96次）を5月30日から7月9日まで行い、園池の一部と園池に伴う塀・旧流路、西方では数棟の掘立柱建物などを検出した。これは極めて重大な遺構・遺跡と考えられたので、さらに園池の全容、坪内の建物配置などを知るために10月13日から12月23日まで3600m²の本調査（第96次）を行い、園池の全容が確認されるとともに、園池と併存する建物・塀・溝・井戸なども検出され坪内の様相が明確となった。この第96次の調査成果は『平城京左京三条二坊六坪発掘調査概報』として1976年3月に刊行した。*
- 1977年度に奈良国立文化財研究所は文化庁の指示に基づき、この遺跡の重要性を考え、第96次調査区の北西に接続する未調査区1,100m²を11月21日から12月27日にかけて調査（第109次）して建物跡・溝・井戸・土壌などを検出した。*
- 史跡指定** 2次にわたる3回の調査の結果、六坪内の遺跡が古代庭園遺跡として他に類例のない規模を有するだけでなく、保存度が極めて良好であり、かつわが国の庭園の成立・展開を考える上に極めて高い学術的・文化的価値を有するものとして極めて重要であるとして、文化庁では1978年10月27日に移建計画用地全域を特別史跡に指定した。*
- 奈良市はこの土地を国庫補助金を受けて購入し、この遺跡の保存・活用を図る目的で史跡指定地内の北半部に管理・展示施設として奈良市市民文化センター建設を計画し実行する運びとなった。これら一連の工事に際して一部未発掘地が残っていたため、平城宮跡発掘調査部では奈良市教育委員会の依頼をうけて1980年に現状変更に伴う500m²の発掘調査（第121次）を1月9日から2月4日まで行った。その結果、掘立柱建物・塀・溝・土壌などを検出した。第121次の調査成果は第109次の概要と合わせて『平城京左京三条二坊六坪発掘調査概報』として1980年3月に奈良市教育委員会が刊行した。*
- 整備** また奈良市は1980年度から国庫補助のもとに特別史跡指定地の整備事業に着手し、平城宮跡発掘調査部・奈良市教育委員会によって整備事業に伴う補足的な調査を1984年度に行っている。整備は1980年度～1985年度まで行われ、池庭遺構の露出、建物・塀の復原、植栽などの工事が行われ、1984年から一般公開されている。庭園遺跡が六坪全体におよぶことが判明しているため、奈良市は六坪内未指定地の土地所有者との折衝の結果、1984年には六坪北東隅の793m²の土地の協力が得られ、追加指定が行われている。*

2 調査地域

調査地は奈良盆地の北辺に位置する沖積地で、北から延びる浅い谷筋の延長上にあり、現在地の標高は 59.9 m 前後で、敷地東に隣接して菰川が南流する。

調査地の周辺は近年、市役所・郵便局などの移転に伴い近鉄新大宮駅が開設され、調査区周辺の状況

* 北を走る国道368号線（大宮通）、調査区の西方を走る 国道24号線バイパス沿いを中心に急激に市街化の波が押し寄せている。合わせて開発行為に伴う発掘調査件数も大幅に増加している現状である。

平城京左京三条二坊の調査数は六坪を含め14件を数える。一坪では平城宮跡第32次調査で二条大路と東一坊大路の交点を検出するとともに坪の北西隅の様相が明らかになった。二坪では

* 坪の中心近くに 7間以上の大規模（10尺等間）な掘立柱東西棟を、三坪では宅地内区画施設と考えられる塀や掘立柱建物の主要殿舎の他地鎮の遺構も検出しており、ともに一坪規模の宅地・占地在が考えられている。七坪では二坪との間の坪境小路と二坊坊間路の東側溝を検出し、木簡・墨書土器などが出土している。坪内では掘立柱建物群・塀・溝などを検出し、宮と同範の軒瓦、二彩陶器・緑釉陶器・硯などを出土している。また六坪で検出した旧河川、流路 SD

* 1560・SD1526 の上流部が確認されており、埋土から出土した土器により 8 世紀の中頃まで流路として存続していたものとみられる。九坪では奈良時代後半に坪の中心に大規模な掘立柱南北棟が検出され、一坪を占める宅地であることが判明している。十坪では坪の東を画する築地と掘立柱建物 3 棟と塀 2 条、井戸 1 基を、十三坪では南辺部の調査で三条大路の北側溝と坪内の建物をそれぞれ確認している。十五坪では十坪との境の坪境小路、坪内の内柵、主屋と副屋、

* 厨屋と納屋、井戸などが検出され、一坪内の整然とした建物配置がみられる。いずれも坪内の一部の調査ではあるが、1坪または 1/2 坪を占める大規模な占地在がみられることや、宮跡と同範の瓦を使用していて宮と密接な関係が考えられる遺構が多いことなどから、三条二坊には高位高官の宅地が多いことが判明している。

| | 年度 | 調査回数 | 条坊位置 | 面積 | 文 献 |
|---|--------|--------|-------|-------|-------------------------------------|
| A | 1965 | 32 | 一坪 | 6000㎡ | 『奈良国立文化財研究所年報1966』1966年 |
| B | 1975 | 96 | 六坪 | 4400 | 奈文研『平城京左京三条二坊六坪発掘調査概報』1976 |
| | 1977 | 109 | 六坪 | 1100 | 奈文研『昭和52年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』1978 |
| | 1979 | 121 | 六坪 | 500 | 奈良市教育委員会『平城京左京三条二坊六坪発掘調査概報』1980 |
| C | 1974 | 奈良県 | 十三坪 | 300 | 奈良県立橿原考古学研究所『平城京左京三条二坊十三坪』1975 |
| D | 1973・4 | 83・86 | 十・十五坪 | 6200 | 奈文研『平城京左京三条二坊』1975 |
| E | 1977 | 103—1 | 七坪 | 900 | 奈文研『昭和52年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』1978 |
| F | 1978 | 112—3 | 七坪 | 301 | 奈文研『昭和53年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』1979 |
| G | 1979 | 118—15 | 二坪 | 150 | 奈文研『昭和54年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』1980 |
| H | 1979 | 118—23 | 七坪 | 160 | 同上 |
| I | 1979 | 奈良市 | 九坪 | 360 | 奈良市教育委員会『奈良市埋蔵文化財調査報告書（昭和54年度）』1980 |
| J | 1982 | 141—35 | 七坪 | 342 | 奈文研『昭和57年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』1983 |
| K | 1983 | 奈良市 | 三坪 | 120 | 奈良市教育委員会『奈良市埋蔵文化財調査報告書（昭和58年度）』1984 |
| L | 1983 | 151—32 | 三坪 | 940 | 奈文研『平城京左京三条二坊三坪発掘調査報告』1984 |

Tab.1 平城京左京三条二坊の発掘成果一覧表

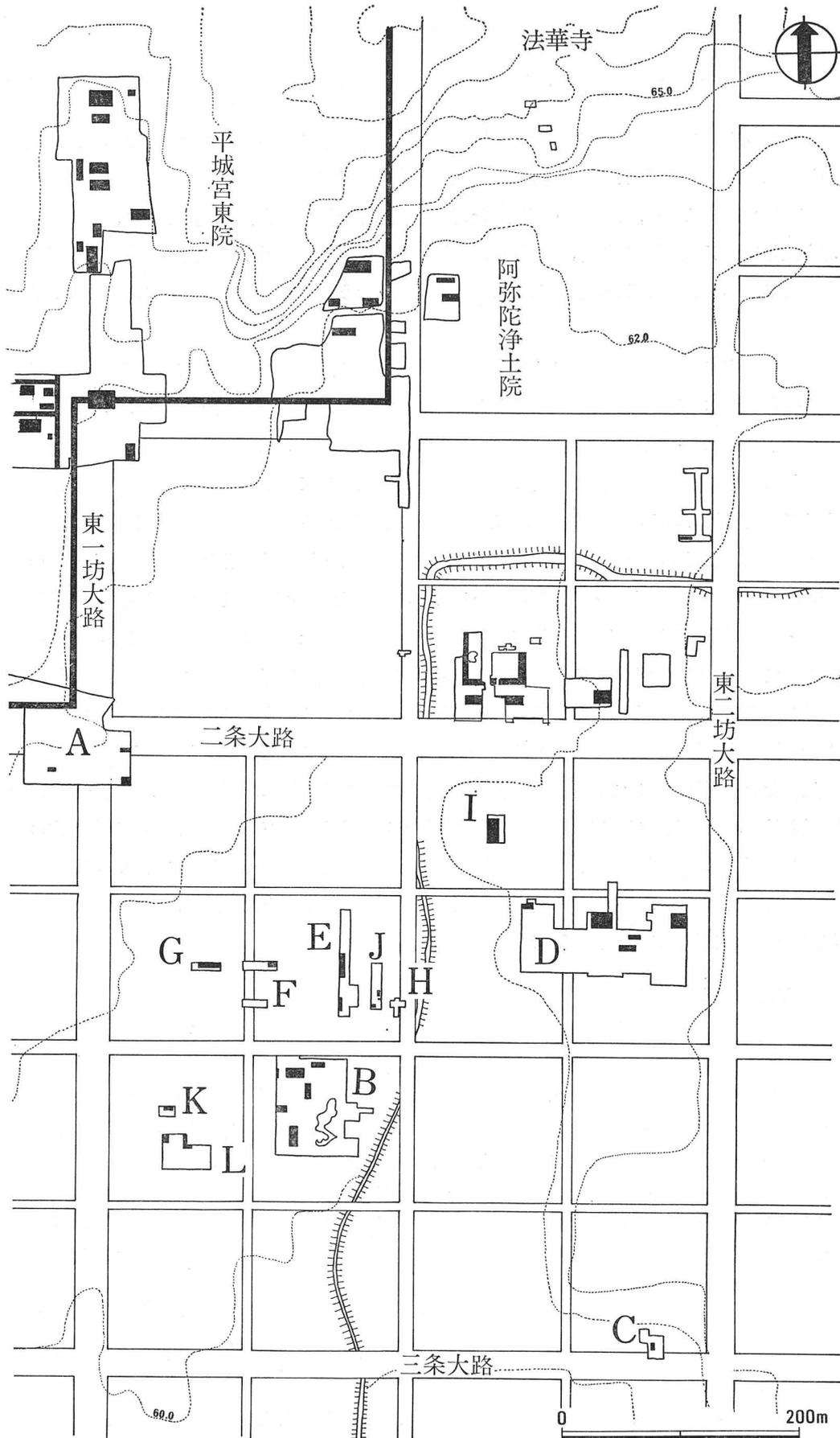


Fig. 3 平城京左京三条二坊周辺の地形及び発掘調査位置図

3 調査の概要

今回報告する地域は平城京左京三条二坊六坪の中心部、北辺部を主とする所で、調査総面積 6,600 m²、六坪の約 1/3 を占めている。1975年の第96次調査から1984年の整備に伴う補足調査までをまとめたもので、調査回数ごとの期間、地区名、面積は Tab.2 のとおりである。

* 六坪は奈良国立文化財研究所が行っている平城京発掘調査の地区割にしたがって、大地区を 6AFI 地区、中地区を P・Q 地区と定めた。

予備調査ではまず敷地内の遺跡の状況を知るために、南端に 70 m×5 m の東西トレンチ、東端に 90 m×5 m の南北トレンチを各 1 本設けた。その結果、東西トレンチ中央東寄りで園池の一部を検出し、また園池を画するとおもわれる塀および旧河川跡、西方では数棟の掘立柱

96 次 予
備 調 査

* 建物を検出した。

| 調査回数 | 調査区 | 調査期間 | 調査面積 |
|---------|------------|------------------------|----------------------|
| 96次予備調査 | 6AFI-P・Q 区 | 1975.5.30~7.9 | 800 m ² |
| 96次本調査 | 6AFI-P・Q 区 | 1975.10.6~12.29 | 4,200 m ² |
| 109次 | 6AFI-Q 区 | 1977.11.18~12.23 | 1,100 m ² |
| 121次 | 6AFI-Q 区 | 1980.1.7~2.5 | 500 m ² |
| 整備 | 6AFI-P 区 | 1984.2.1~2.8 2.14~2.15 | |

Tab.2 各次調査の期間と面積

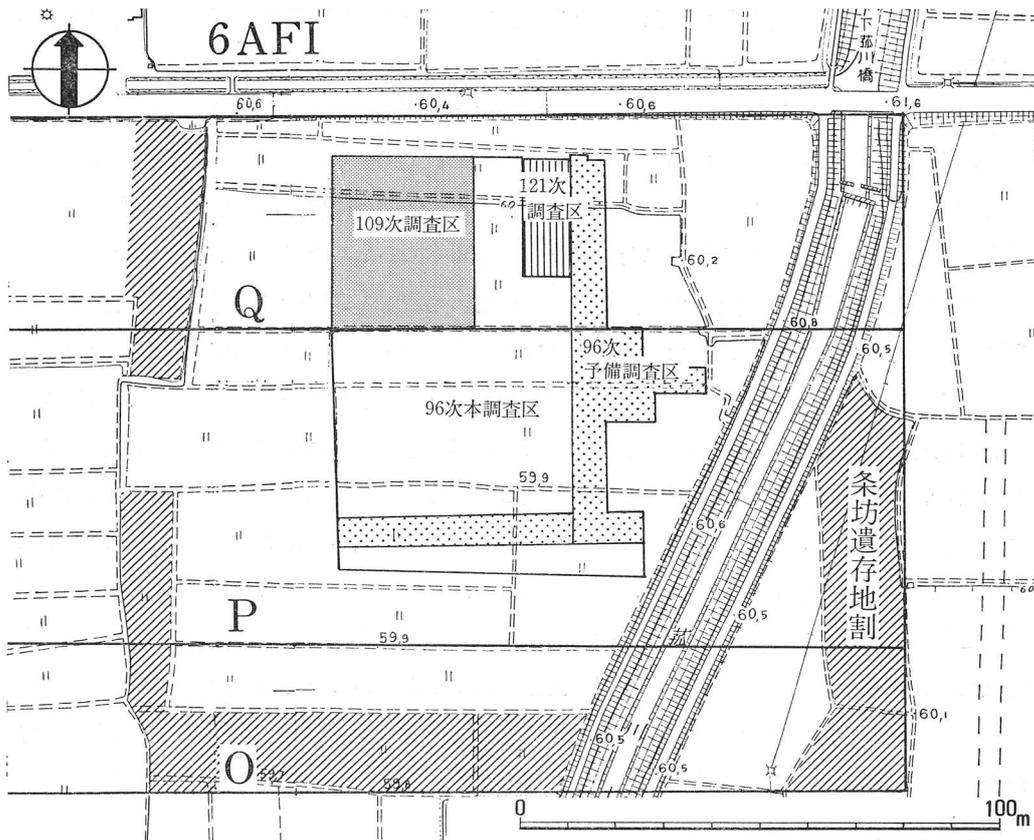


Fig.4 6AFI地区 地区割図

96次本調査 第96次本調査では予備調査の所見にもとづき、池の全容、坪内の建物配置を明らかにすべく調査を実施した。その結果、坪の中心部を南流していた旧河川路を利用して園池が造成され、この園池を中心に堀、建物が計画的に配置されていることが判明した。園池は全体を石組で固め、蛇行した曲池のような形状をなし、観賞と同時に、雅宴などの行事に供する機能的な庭の要素を持つものと思われる。池への導水は旧河川路を利用した導水路によって一旦水を貯め、木樋によって池へ導入する構造になっている。排水は池底より木樋で抜くものとオーバーフローする二重の構造でいずれも南端の石組排水路へ流れ出る。整地層や遺構の重複配置などにより大きく二時期に区分でき、建物・堀などは坪心から一定の距離をもって計画的に配置されており、坪内敷地利用の基準的手法を示している。また園池西方の建物は南北棟が多く、京内遺跡の建物の大部分が東西棟によって占めらる知見とは反するが、園池後方の東山を眺望する構想と関連するものである。遺物は量的に少ないが発掘区全域から出土し、特に導水路から出土した64点もの多量の木筒と、平城宮使用のものと同型式に属する軒瓦が目される。この時点では木樋の両脇に1mの間隔で立つ導水のための関連施設と考えられる2本の小角柱掘形が導水路の堆積土の上面で検出したことや、木樋掘形が上面から見えなかったことから、導水施設の施工が導水路を一部埋め戻して施工したことによる施工順の差と考えた。従って導水路と園池は併存していたものと考えていた。

109次調査 第109次の調査は第96次調査の西北にあたり遺構は三時期に分かれる。掘立柱建物5棟の他、溝2条、井戸2基、土壇などを検出している。第96次検出の園池とは東西堀で区画され、堀の南側が園池を中心とする公的な宴遊施設であるのに対して、堀の北側は六坪占有者の家政機関で園池の管理・運営が行われていたものとみられる。また各時期の建物配置は堀の南北とも一体として建て替えが行われていることが判明した。

121次調査 第121次調査は第96次本調査の際に進入路に使用していた未調査区で、掘立柱建物2棟、溝3条、土壇3基などを検出している。導水路は旧河川の流路をそのまま利用して、その堆積を切って掘られているわけであるが、導水路が機能している期間には、旧河川の浸蝕作用で形成された崖面、氾濫原は埋められずにそのままの形を留めていたことが明らかになった。

補足調査 整備に際しての補足調査としては、石が欠損して石張を補足する部分において、池底の断ち断り、護岸の断ち割り、また木樋取りあげの際も導水・排水部において土層観察などの補足調査を行った。その結果池底の下にも導水部の堆積と考えられる土層と同様の状況が認められたことや、導水木樋の布設が導水路埋め立ての茶褐色粘質土による整地と同時に行われていることや、護岸石・景石の施工が導水路廃絶後の整地である茶褐色粘質土の上面でされていることが判明したため、導水路と石組の池は施工差でなく時期差であることが確認された。すなわち導水路は石組の池の前身の流れ、旧流路であり、廃絶後に整地されその上に石組の園池が造営されていたことが明確となった。そのため当初、導水路と同時期の奈良時代当初の施工と考えていた園池造成の時期をやや下げて考えなければならぬこととなった。特に旧流路廃絶後の整地と同時に行われた導水木樋部の整地土に包含する瓦・土器や、北側の七坪でも検出された旧流路廃絶後の全体の整地土の茶褐色粘質土に混じる遺物の編年により園池の造成は奈良時代後半と考えられることになった。

4 調査日誌

A 第96次予備調査

6AFI-P・Q 地区

1975年5月30日～7月9日

- 5・30 ユンボによる表土排除。1日で完了。
- 6・2～5 トレンチ整備。
- 6・6 地区杭打ち。遺構検出開始。SD1453 と重複して古い斜行溝 SD1456 検出。
- 6・7 排水作業。
- 6・9 東西トレンチの包含層（暗褐色土）の排土を行う。SG1504 の南岸検出。
- 6・10 SD1453・SD1451 を検出。両側溝とも土師・須恵器出土。両側溝間2丈あり、道路側溝とも考えられる。SD1453 を挟んで SA1455 の南端柱穴検出。東西トレンチ西端では大きな柱穴状の穴を多数検出。
- 6・11 SB1510 の南側柱検出。SB1472・SB1470 検出。SB1472 西側柱穴の底近くで布片出土する。
- 6・12 池 SG1504 の掘り下げを行う。池内堆積土は大きく2層に分かれ、上層は赤褐色粘質土で瓦器碗1点出土。下層は暗灰色粘土で瓦・須恵器が少量出土。池底にも石を敷きつめている。南北トレンチでは SA1483・SA1455 検出。
- 6・13 池の堆積は上層より赤褐色粘土、暗灰色粘土、薄い黒色粘土で底石の間は青灰色粘土、遺物はほとんどない。池南岸の横倒し石の下に掘り形状に赤褐色粘質土を、その下に東岸では立石、西岸では石敷の斜面を作り下に立石を配置する。南岸の南に石群あり、下は暗灰色粘土で排水施設と考える。南岸辺で木柢 SX1463 を検出。南北トレンチ北では浅い土壙状の落ち込みを掘りながら進む。
- 6・14 東岸周辺の赤褐色粘質土面を検出。岸辺で灰黄褐色細砂（地山）に交替。赤褐色粘質土は池掘削時の造作で、同質の埋土を持った東西溝

SD1453・SD1451・SD1456 がある。

6・16 池南岸の拡張区で赤褐色土の落ち込みあり、また SD1451 を検出。南北トレンチ北端では厚さ約 15 cm の遺物包含層（暗灰褐色土）を排土。同層中より須恵・土師片多量に出土。他に二彩小皿1点、軒丸・軒平瓦1点出土。

6・17 ユンボにより南北トレンチ中央を東に拡張、床土まで除去する。南拡張区で南北大溝（旧河川）検出。南北トレンチ北部も大溝（SD1525）が北へ曲がる。

6・18 東拡張区で遺構検出。SA1455 と北で曲がる SA1500 検出。南北トレンチ北部では SD

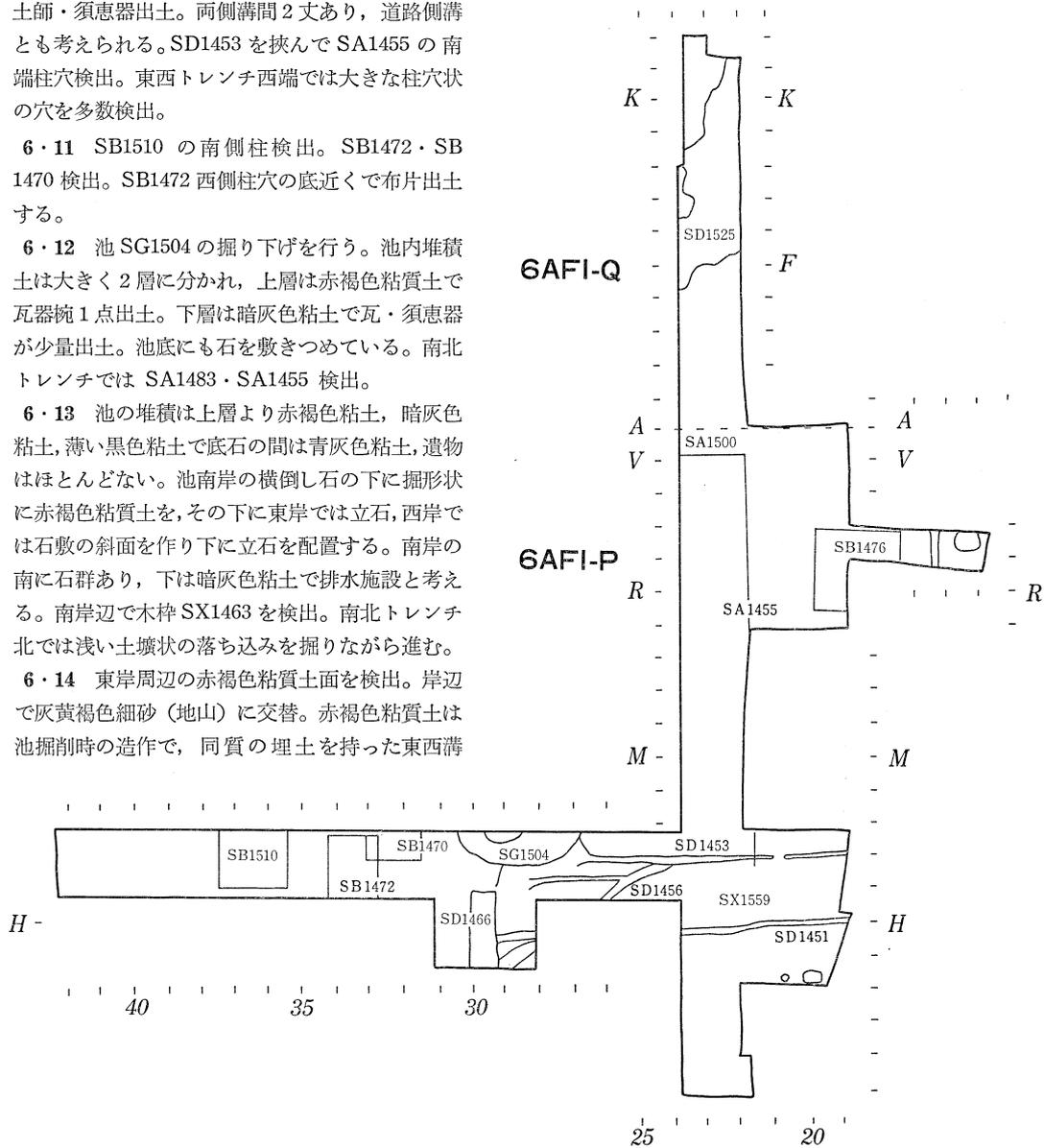


Fig. 5 第96次予備調査地域の地区割と主要遺構

1525 の茶褐色粘質土 (厚さ 15 cm) を掘り下げる。遺物多数出土。漆器 1 点出土。その下の灰色粘土層 (厚さ 15 cm) も掘り下げるが遺物は非常に少ない。この下層に黒味がかかった粘土層があり、木を多数含んでいる。

6・19 南拡張区で旧河川跡の内側に両側石積みの溝 SD1466 検出。池の排水溝と考えられる。層位は 3 層あり、上から汚れた緑黒色腐植土、暗灰色粘土、最下層は中層よりやや青味をおびる。遺物は瓦・土器片若干出土する。東拡張区では SA1455 の南 4 間分検出。重複して SA1483 検出。南北トレンチ北端で条間路南側溝の南肩と考えられる SD1545 検出。池の北端を確認するトレンチ調査を行う。

6・20 南拡張区で池と排水溝 SD1465 の石敷は、溝側に下がって行き、池からオーバーフローする水の排水溝であろう。南北トレンチ北方の大溝はほぼ掘り終り、「麻呂」などの木簡 2 点以上出土。

6・21 南拡張区 SD1466 の底まで掘る。池から SD1466 の斜面の砂層よりⅢ期の軒瓦出土。東拡張区で SB1476 検出。

6・22 南北トレンチ北端の南肩のでている溝 SD1545 の全幅を確認するため北へ拡張し 1.2 m 幅の溝になる。北部での大溝 SD1525 掘り下げ、木簡 2 点、編みもの出土。

6・26 排水作業。

6・27 写真撮影準備のため遺構検出面清掃。

6・30 清掃。写真撮影。

7・1 写真撮影。園池部分は併行してクレーンによる写真測量を行う。

7・2 実測準備。実測。池の立面図作成のための写真測量。

7・3 実測。

7・7 排水作業。

7・8 池から南の排水口 SD1466 の間で、土層観察のため幅 30 cm ほど掘り下げると、下に南北にのびる木樋の存在を確認。埋戻し砂入れを始める。

7・9 ブルドーザーによる埋戻し作業。

B 第96次本調査

6AFI-P・Q 地区

1975年10月6日～12月29日

10・6 現場縄張り。

10・8～9 現場小屋建設。

10・14 バックホーによる表土排土開始。耕土、床土 (黄色粘質土)、灰褐色粘質土 (包含層) で包含層上面まで排土を行う。

10・15 バックホーによる表土排土終了。池想定

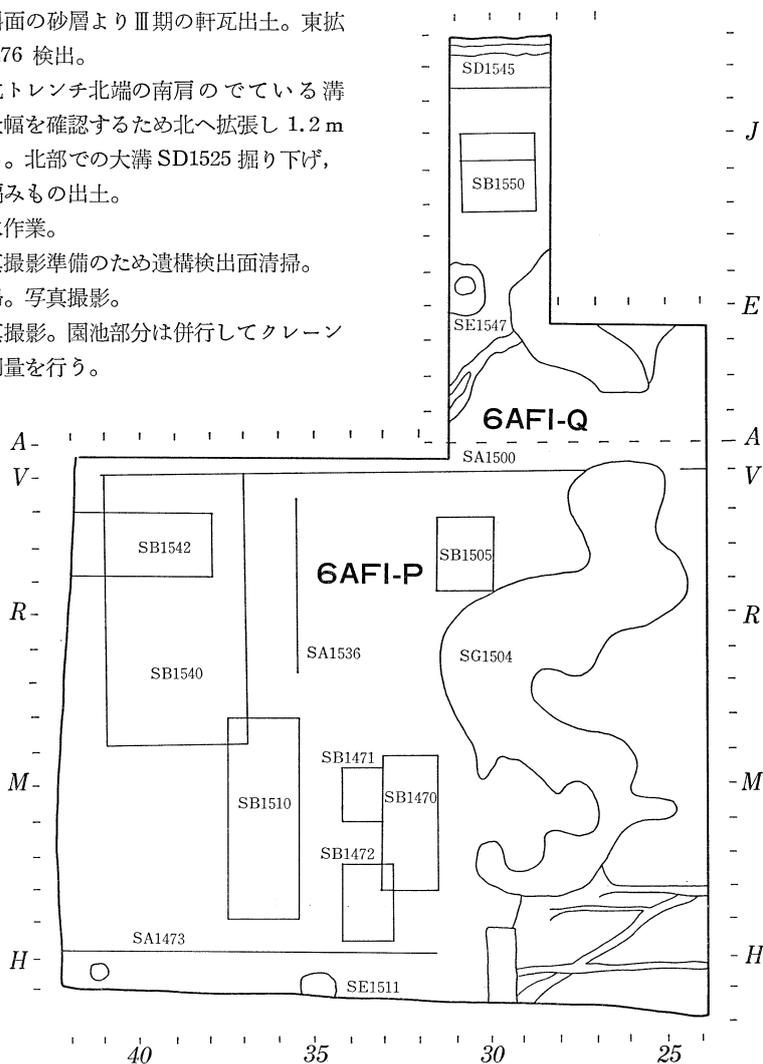


Fig. 6 第96次本調査地域の地区割と主要遺構

部分は手掘りにより表土排土を行う。

10・16～22 表土排土。

10・21～28 中央畦畔より東側で、南から床土を排土する。予備調査トレンチ部分は埋め戻し砂まで検出。池の護岸、バラス敷、景石が一部頭を出す。池のほぼ中央部に東西・南北土層観察用の畦を設定する。

10・28 床土排除が完了したP地区中央畦畔より東側で北より遺構検出開始。予備調査で一部検出したSA1500の延長部を検出。池の護岸汀線の玉石列を切って施工されているが、池の内部には柱穴検出できず、同時存在と考える。

10・29～11・1 P地区中央畦畔西側で東より床土排土を行う。

11・4 P地区で畦畔西側の床土排除と東側の遺構検出を併行して行う。池の両岸の礫敷汀線とSB1505 検出。池の形状は旧河川に沿った形で蛇行する。

11・5 池の礫敷汀線と池内に向かって傾斜している玉石敷を検出。SB1505 の東南隅柱は池護岸の礫敷と重複し、柱掘方は礫敷の下で検出。池より古いか施工差であろう。

11・6 P地区畦畔西側の床土排除完了。

11・7 池の輪郭が明確になる。SB1470 検出。予備東西トレンチに至り、南より遺構検出始める。

11・8 南端で土壙 SK1516 と井戸 SE1511 検出。すぐ北側に東西塀 SA1473 検出。

11・10 SB1510の南2間分検出。南北棟SB1472 検出するも北妻柱削平のためか検出できず。池は堆積土除去。見切りの立石の界線を検出。池、底石上より灰釉平瓶片を出土。

11・11 調査区西辺では湿地を埋めたてた整地層（黄色粘質土）で穴をいくつか検出するも柱穴としてまとまらない。SB1471 検出。池は西岸に出島を東岸に石組の入り込んだ施設 SX1461 を検出。池底で水が流れる幅は2m位と狭く、流れまたは曲水のような形状をなす。

11・12 西辺で建物根石状の石群検出。池は東岸で舟入り状の施設 SX1463 を検出。池底からウメ・モモ・マツの球果が多数出土。

11・13 南北棟 SB1510 が6間でまとまる。南より2間目、3間目に間仕切柱を設ける。

池底に木枠の施設 SX1503 検出。

11・14 北塀 SA1500 は7尺等間で西へ延びる。SB1510 の東側柱にそろえて南北塀 SA1536 検出。

11・15 東側はトレンチ北端に到達するが、池は狭まりながら北へ更に延びている。

11・17 池が北へ延びるため北側12mほどバックホーにより上土排除する。Q地区のトレンチ南から遺構検出。トレンチ中央西南から東北にかけて東側は灰褐色砂質土、西側は褐色粘質土の整地

層となる。P地区調査区西端ではSB1540の根石跡を検出。

11・18 P地区西北部は暗褐色粘質土の整地で掘り下げると砂層がでる。西北部の根石、抜き取り穴をまとめると2×7間、東西両庇付の礎石建物SB1540になる。池の北拡張部では旧河川の埋土、整地層の暗赤褐色粘質土面で削り北へ進む。

11・19 雨のためP地区の床土排除。池の北拡張部では赤褐色粘質土面を一段掘り下げる。

11・20 池の北拡張部で木樋暗渠 SX1523 を検出。木樋は旧河川の整地とともに設定されたもので掘方はみえない。また木樋北端部で整地層に砂を含む違いで差がつくが明確でない。

11・21 Q地区の遺構検出。南部・北部とも旧河川床の整地土があり、中央部のみ黄褐色粘質土の地山がみられる。南部の河を掘り下げると上層は灰褐色粘質土、下層は暗灰色粘土である。

11・22 池北拡張部の導水路のSD1525の掘り下げ。下層の黒色粘土より木片多数出土。他に奈良時代初の土器片・曲物など出土。導水の木樋 SX1523 は先端が開いてないため上部から給水していたものと考えられる。

11・25 Q地区トレンチ北SB1550 検出。南で井戸 SE1547 が旧河川の埋土を切って掘削されている。南端では斜行溝 SD1532 を検出。北東の旧河川に流れ込む溝で北塀 SA1500 と重複し、北塀より古い。導水路 SD1525 より木筒出土。SD1525 の屈曲部に木片多量に出土。土層では暗灰色粘土の下の粘質土混り暗灰色砂質土に木片が多く、同層中・上層でハン状の木片が多く、下層の砂が少し多くなった層で木の加工片が多くなる。

11・26 木樋暗渠 SX1523 北端取入口両側に柱根を持つ柱穴検出。導水に関連する施設か。SX1523 より給水する石組壙は底にも石敷があり、東辺で石敷を仕切る木枠を検出。池内の土層用畦畔除去。

11・27 池尻排水溝清掃。排水用木樋暗渠 SX1464 検出。井戸 SE1547 掘り下げる。

11・28 SE1547 と SD1525 の掘り下げ。導水路 SD1525 は旧河川 SD1560 が埋め立てられた後に造成されていることが判明。池北端の石組壙の全容検出。

11・29 井戸掘り完了。側板が井戸中に浮いて出土。遺物若干。SD1525 掘削完了。発掘区南東のトレンチで東西溝 SD1451 の延長部検出。

12・1 P地区西端より遺構検出面清掃。池清掃。

12・2 遺構検出面清掃。

12・3 遺構検出面清掃完了。写真測量用基準点（75点）設置。

12・4 ヘリコプターによる写真測量。写真撮影。

12・5 写真撮影。新聞記者発表。

12・6 現地説明会。

12・8 排水作業。

- 12・9 排水作業。清掃。
- 12・10 写真撮影。
- 12・11 写真撮影。SE1511 掘り下げる。
- 12・12～18 実測。土層図作成。
- 12・15 池石組立面図作成のための写真測量。
- 12・19 補足調査で SB1540 の下層に SB1542 検出。木樋・木枠の実測。
- 12・20 池に水を貯めて写真撮影。
- 12・22～23 実測完了。
- 12・24～28 木枠・木樋など木製品に PEG による保存処理。庭石などのエポキシ系樹脂による養生後、埋め戻し作業。

C 第109次調査

6AFI-P・Q 地区

1977年11月18日～12月23日

- 11・18～21 ユンボによる表土排土。
- 11・22～24 Q地区西側より床土排土。
- 11・25 地区杭打ち。床土排土。
- 11・26～29 床土排土。
- 11・30 午前中に床土排土完了。午後より厚さ 5 cm の灰褐色土を除去して遺構検出開始。
- 12・1 灰褐色土は北端では 5 cm、南端では約 10 cm の厚さがあり、地山面は南へ下がっていく。SB1552 の西側柱を検出。柱穴は重複がみられ、建て替えの可能性が高い。SB1570 の東側柱と南北棟 SB1573 検出。北側の灰褐色土で石製品出土。
- 12・2 SB1552 東から3間目まで柱穴検出。建物内に小柱穴あり、足場穴とも考えられる。東より2間目の南側柱穴の柱痕跡から平城Ⅳ～Ⅴ期の須恵器が出土。SB1552 の南から灰褐色土の下層にある茶褐色土の整地がみられる。茶褐色土中に石・瓦・土器を含む。
- 12・3 SB1570 の西延長部検出。SB1570 の南に試掘孔掘り。深さ約 60 cm、灰黒色粘土で、そ

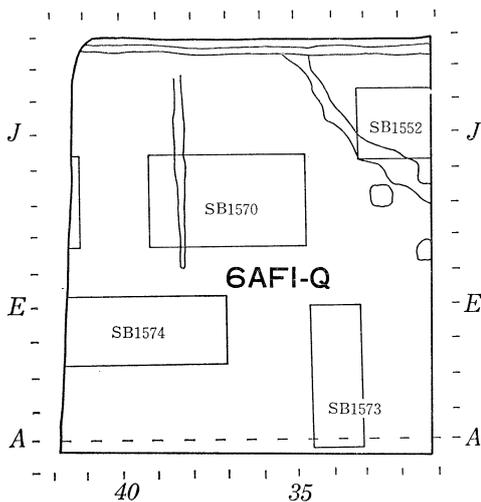


Fig. 7 第109次調査地域の地区割と主要遺構

の上に茶褐色土があることを確認。

- 12・5 SB1570 の全容検出。5 × 3間の南庇付建物となる。SB1570 西側柱以西は地山が高くなり、茶褐色土もなくなる。
- 12・6 西端で SB1571 検出。SB1570 とは通りをそろえ、同規模の建物と考えられる。すぐ南で SB1574 が黄灰色粘土層の上層のチョコレート層で検出。
- 12・7～8 西から遺構検出面清掃。
- 12・9～10 写真撮影。
- 12・12 実測準備。遺方設定。
- 12・13～21 実測。
- 12・22 写真測量用基準点設置。
- 12・23 空中写真測量。砂入れ埋め戻し。

D 第121次調査

6AFI-Q 地区

1980年1月7日～2月5日

- 1・7 発掘区縄張り。ユンボ表土排土。
- 1・8 発掘用機材運搬。現場小屋設営。溝掘り。
- 1・9 南トレンチの床土(黄灰色粘質土)排土。
- 1・10 Q地区の北側より床土排土して遺構検出。SB1552 の北側柱1個検出。
- 1・11 黄灰色粘質土(地山)で遺構検出。SB1552 の北側柱検出。SB1552 は2個の柱穴が重複しており、新しい方を抜取り穴として遺物取り上げる。古い柱穴にも土器小片含む。また建物内に内部施設に関連する小穴検出。発掘区東辺 1 m 幅は遺物を含む灰褐色斑入り粘質土で導水路の可能性はある。
- 1・12 SB1552 の東側柱を検出し、東西7間、南北2間の建物であることが判明する。
- 1・14 導水路の埋土と考えられる灰褐色粘質土の線が東辺から西南にかけて検出。
- 1・16 南より灰褐色斑入り粘質土とその下の茶褐色粘質土で遺構検出するが、この面では導水路が検出できない。
- 1・17 茶褐色粘質土を 40 cm ほど掘り下げる。

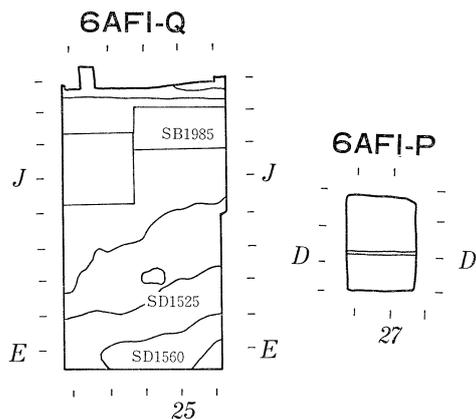


Fig. 8 第121次調査地域の地区割と主要遺構

遺物は小片であるが多量に出土する。

1・18 茶褐色粘質土を掘り下げる。下層に黒褐色粘土、その下に旧河川 SD1560 を掘り込んだ導水路 SD1525 の肩を検出。

1・19 茶褐色粘質土を掘り下げ、暗灰色粘土の面を出す。

1・21 茶褐色粘質土を掘り下げ、旧河川 SD1560 堆積面で導水路 SD1525 の両肩を検出。SD1525 の堆積は導水路第1層～3層に分かれる。

1・22 導水路の掘り下げ。木簡1点出土。北辺の SD1545 検出。溝 SD1545 は2段になっており下層は灰褐色粘土、上層は茶褐色粘土で埋められ、2層とも遺物は少ない。茶褐色粘土の上層に炭混り暗灰色砂質土・土器溜を検出。また SD1545 南岸に溝と直交する形で3条の溝状の跡を検出。橋の桁をかけた跡とも考えられる。

1・23 SD1545 の掘り下げ。導水路最下層(黒灰粘土)掘り下げ。木簡6点出土。P地区南トレンチの遺構検出。顕著な遺構はない。

1・24 導水路 SD1525 の掘り下げ。導水路中に打ち込まれた杭2本検出。導水路南岸で和同3年4月の紀年名のある木簡出土。北岸の旧河川堆積土を掘り込んだ土壙 SK1983 検出。瓦片・土器片・土馬片出土。旧河川の堆積層から5世紀後半の土師器出土。写真測量用の基準点設置。

1・25 空中写真測量。写真撮影。

1・26 実測準備。遣方設定。

1・28～30 実測。

1・31 SD1525 の北の一部を拡張。溝肩検出するも南岸の溝状遺構はないことを確認。

2・4 前回の写真測量失敗のため、再度空中写真測量を行う。

2・5 埋め戻し、砂入れ。

E 整備に伴う調査

6AFI-P 地区

1984年2月1日～2月15日

2・1 池上流部西岸の池底石の欠失している個所にトレンチを設定し、断ち割る。池中央側に落ちていく暗灰色砂質・粘質土の堆積が認められ、粘質土底に木質遺物が多く堆積している。池下流に近い西岸入江部にトレンチを設定する。青灰色粘土の上に40cm厚の黄褐色粘土(いずれも地山)が池中央に向かって急速に落ち込み、旧流路の堆積と考えられる暗灰色砂質土・灰黒色粘土がある。また岸辺では黄褐色粘土の上に茶褐色粘土の堆積がみられる。

2・2 池岸に4個所のトレンチを設定。一番北のトレンチ以外はいずれも旧流路の外側で黄褐色粘土の地山を検出。その上に茶褐色粘土の整地がみられ、茶褐色粘土の上に礫敷・景石の抜き取りを検出。

2・3 浄水施設 SX1524, 池中の岩島などいずれも下に茶褐色粘土が敷かれていることが判明。すなわち池造成に関しては茶褐色粘土を敷いて立石・敷石を据えつけていることが、また池底は旧流路の埋土の上に直接石をはりつけていることを確認する。

2・8 導水路木樋とりあげ、整備工事に関連しても茶褐色粘土が造成時に際して整地されたものであることが確認される。茶褐色粘土の下層の灰色粘土より平城Ⅲ期の軒瓦、土器出土。

2・14 池下流排水溝 SD1466 の両岸を断ち割り、旧流路の両岸を検出。旧流路は暗灰色粘質土の堆積がみられ、この上に茶褐色粘質土の堆積があり、排水溝護岸石は茶褐色粘質土に据えられている。

2・15 排水木樋 SX1464 の西側にトレンチを設定。西端で黄褐色粘土・青灰色粘土の地山が急に落ち込み、旧流路の堆積の暗灰色粘質土があり、上層に茶褐色粘質土の堆積がみられる。

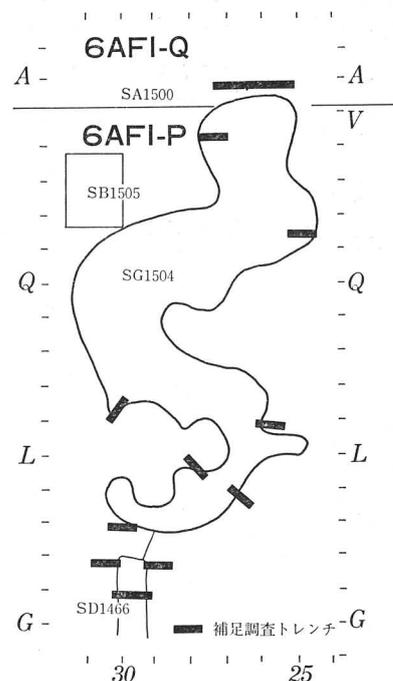


Fig.9 整備に伴う補足調査地域

5 写真測量

遺構の実測は主に写真測量によった。写真測量は地形図作成のために古くから用いられている方法で、ある距離を隔てた2点から撮影した重複した2枚の写真(ステレオモデル)を使って、物体を3次的に計測しようとするものである。遺構の写真測量は、精度の均一性、写真の忠実性、外業の迅速性などの長所を持つことにより1963年に平城宮跡で試みられたのがはじまりで、継続的に行われ、特に今回のような石敷・礫敷などの多い遺構では有効である。測量方法はあらかじめ地上に位置と標高を正確に計測された標定点を設ける。標定点は一对の写真に縮尺用と横ぶれ用に2点、縦ぶれ用に1点、合計3点あればよく、標定点の密度は所要の図化縮尺により撮影高度とレンズの焦点距離、フィルムの寸法によって決まる。図化は撮影されたフィルムを使い写真図化機によって、標定点をもとに機械の中に被写体と同じ形状のモデルを作り、平面に投影描画し、遺構図を作成する訳である。

各調査区の写真測量 第96次予備調査では園池の部分だけクレーン車でステレオカメラを釣り下げて、第96次本調査、第109次、第121次調査ではヘリコプターにカメラを搭載して遺構全体の撮影を行った。成果品としては1/100モザイク写真と園池については1/20の遺構図、その他については1/50の遺構図を得た。また園池石組立面図作成のため、96次予備・本調査では地上写真測量を行い、1/20の立面図の成果を得た。

96次本調査以外は図化以前に遣方測量を先に行っているが、本調査では写真測量だけで図化しているため、写真測量後の補足調査の過程で検出した若干の遺構については図面にあらわれるが写真にはでていない。また96次予備調査ではクレーン撮影をした池の部分以外は垂直写真がない。

| (平面図) | カメラ | レンズ | フィルム | 露出 | 絞り | 高度 | 変位修正機 |
|---------|---------------|--------|-----------------|------------------|-------|---------|---------------|
| 96次予備調査 | NAB150 | 168 mm | イルフォード ガラス乾板 | 1/250秒 | 11—16 | 10—15 m | ツアイス SEG V |
| 96次本調査 | ツアイス RMK-A | 153 | コダック エアロタイプ | 1/150秒 1/250秒 | 8—16 | 15—30 m | 〃 |
| 109次調査 | 〃 | 153.21 | コダック TRI-X | 1/400秒 | 10 | 30—45 m | 〃 |
| 121次調査 | 〃 | 152.67 | 〃 | 1/350秒 | 8 | 30 m | 〃 |
| (立面図) | | | | | | | |
| 96次予備調査 | Wild C-120 | | GEVAPAN33 | 1/2—1/8 | | | 〃 |
| 96次本調査 | SMK40 | | イルフォード ガラス乾板 | 1/50—1/100 | | | |

Tab. 3 写真測量撮影仕様

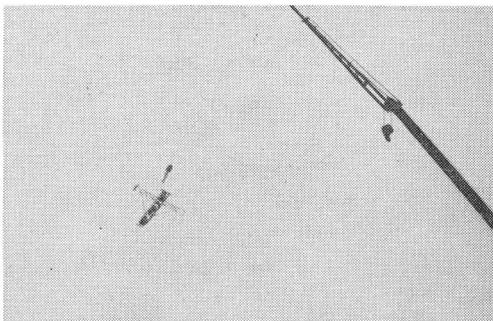


Fig. 10 クレーン車による写真測量



Fig. 11 ヘリコプターによる写真測量

| 標定No. | X | Y | H | 標定No. | X | Y | H |
|-------|--------------|-------------|--------|-------|--------------|-------------|--------|
| 2 | -146,318,980 | -17,841,049 | 59,320 | 46 | -146,363,142 | -17,869,003 | 59,852 |
| 5 | 340,254 | 841,049 | 59,572 | 52 | 363,142 | 893,423 | 59,487 |
| 8 | 363,142 | 841,049 | 59,502 | 62 | 376,266 | 826,729 | 59,364 |
| 10 | 376,266 | 841,049 | 59,423 | 71 | 310,597 | 860,632 | 59,787 |
| 20 | 340,254 | 868,813 | 59,816 | 76 | 294,055 | 853,281 | 59,580 |
| 23 | 340,254 | 891,918 | 59,517 | 79 | 319,318 | 876,087 | 59,505 |
| 27 | 332,907 | 862,639 | 59,621 | 81 | 291,778 | 876,087 | 59,680 |
| 36 | 348,860 | 877,024 | 59,472 | 82 | 319,318 | 891,173 | 60,212 |
| 45 | 355,722 | 893,619 | 59,512 | 84 | 297,153 | 841,049 | 59,724 |

Tab. 4 写真測量標定点成果表

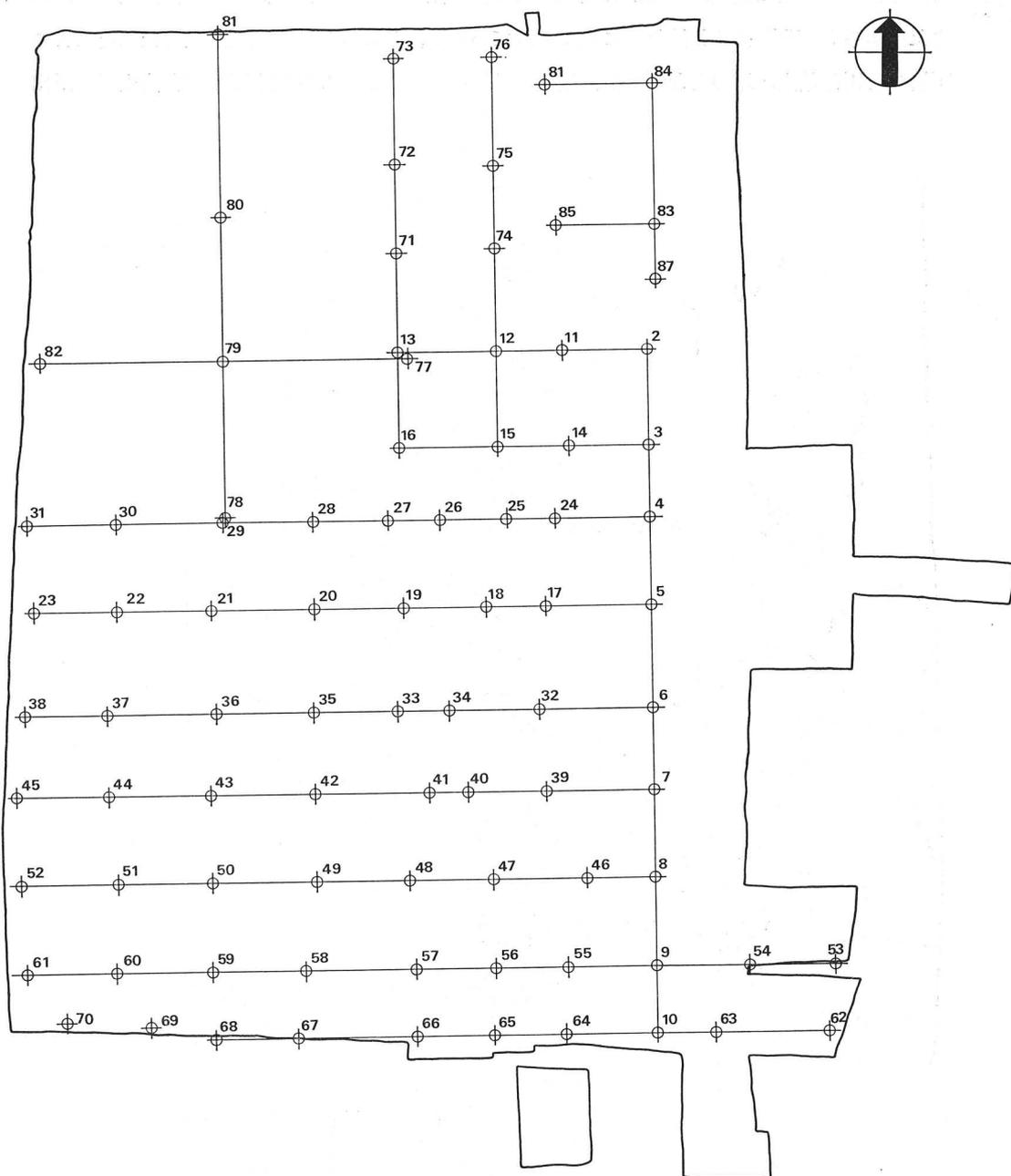


Fig. 12 調査区標定点配置図